1．人をはぐくむまち

（1）住民が主役のまちづくりの進化

▼10年後の姿

・住民自らが積極的に行動し、みんなで地域課題の解決のために行動するまち

▼現状と課題

本町のまちづくりの原点は「住民主体のまちづくり」「手づくりのまち いいで」です。

一方で、少子高齢化による人口減少により、地域社会の連帯意識が希薄化し、コミュニティ活動の担い手の高齢化や固定化により、地域の活動が停滞しつつあります。身近な問題をお互いに助け合いながら解決しようとする自治意識と、地域の連帯感の高揚を図ることで自治組織の活性化を促し、住民一人ひとりが自ら担い手となって、地域づくりに取り組んでいくことが求められます。

▼10年間の取り組み

まちづくりの主役は、そこに暮らし、働き、学び、集い、憩う住民一人ひとりであり、本町が目指す将来像を実現させるためには、町や地域を想う多様な担い手を育成、支援し、より良い地域を作りあげ、それを維持していくという姿勢が求められています。

まちづくりを進める上で重要となる「人をはぐくむ」取り組みを推進し、郷土や地域への愛着を感じる住民意識の醸成を図るとともに、住民と行政が積極的に交流し、様々な分野で町のために貢献したいという住民の意欲を生かすための制度や環境を充実させ、住民の参画をさらに進めていきます。

地域や住民の主体性と自主性を尊重し、住民と行政、さらには町外に暮らし町内で働く人、来訪者等の交流・関係人口、多様な主体と連携することで、新たな課題解決のための主体づくり、活動組織づくりを推進していきます。

▼成果目標

成果目標	2015年	現状（2020年）	目標（2030年）
審議会等の公募委員の割合	5.3%	10%	20%
地域づくり推進事業　地区間連携事業数	－	－	新規９地区
地域づくりの新たな組織の創設支援と育成	－	－	新規３団体

▼SDGs17の目標との関係性

誰もが輝ける一人ひとりが主役のまちを目指します。

住民と行政、多様な主体が連携したまちづくりを進めます。

人や地域、多様な主体との“つながり”を大切にします。

CSR　企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility）の意。
企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的（ボランタリー）に社会に貢献する責任をいう。

CSV　共有価値の創造（Creating Shared Value）の意。
経営戦略のフレームワークで、企業による経済利益活動と社会課題の解決を両立させること、およびそのための経営戦略のフレームワークをいう。

▼10年間の取り組みの詳細

①住民一人ひとりの誇り・輝きを支援

町が目指すべき未来像は、家庭や地域、学校、職場など、あらゆるシーンで、誰もが生き生きと輝く町の実現です。違いを認め合いながらも他者を尊重し、新たな活動や挑戦を積極的に後押しし、誰もが自分のために、さらには地域や町のためにチャレンジ可能な寛容社会を構築します。

○主な具体的取り組み

・住民の自主的な学びと成果を生かすことができる環境づくり
・まちづくり人材養成講座の展開
・交流拠点の整備
・自治基本条例の策定
・SDGs住民アワードの開催（SDGsやまちづくり活動の優良活動団体等の表彰）

②地域づくりの推進

各地区の地区別計画に基づき、主体的・自主的な取り組みを行う地域に対し、今後も継続して積極的に支援を行います。

地区間連携を深め、まちづくりセンターを中心に住民の主体的な地域づくりを多角的に支援します。また、地域づくりやまちづくりNPO法人等の育成と支援を実施します。特に、若者や女性が自ら意思決定し、自発的に行動を起こしていこうとするエンパワーメントを引き出し、多様な主体による地域づくりを推進していきます。

○主な具体的取り組み

・多様な主体による地域づくり推進事業の推進
・各地区の地域づくり活動事例発表会の開催
・小さな拠点づくり支援
・地域の特色を生かしたコミュニティビジネスの創出等の支援
・まち普請事業（事業コンテスト）の実施

③各種団体との連携と支援、新たな組織づくり

企業や教育機関、金融機関、NPO法人、ボランティア団体、地域おこし協力隊等の多様な主体との連携により、地域経済の活性化や新産業の創出に着実につながる取り組みを進めていきます。

企業のCSRやCSV活動、異業種交流、教育機関のフィールドワークなど、本町の豊かな自然や文化を活用した活動や学習を積極的に受け入れ、NPO法人、ボランティア団体等の育成と連携を通じて、多様な主体とのつながりから新しいまちづくりや地域づくり、地域の活性化につなげていきます。

○主な具体的取り組み

・企業や大学等のフィールドワーク（調査・研究）活動の受け入れ
・まちづくりネットワーク会議による情報共有、連携支援
・NPO法人やボランティア団体等との連携の推進
・異業種間事業提案型コンテストの実施
・いいで型まちづくりパッケージの視察受け入れ組織の育成、支援
・地域・まちづくりNPO法人等の創設支援と育成

（2）性別や世代を超えて住民が活躍できる社会づくり

▼10年後の姿

・性別や世代に関わらず、みんなが助け合い元気に生き生きと生活するまち

▼現状と課題

本町の人口は、2020年現在で約6,800人であるものの、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2060年には約3,300人にまで減少すると見込まれています。少子高齢化による人口減少に歯止めがかからない状況の中で、地域コミュニティの希薄化や地域の担い手不足が深刻化しています。

このような中で、将来的に持続可能な地域づくり、まちづくりを行っていくためには、老若男女問わず幅広い住民のまちづくりへの参画と地域の主体的･自主的な取り組みが重要です。また、まちづくり活動は、子どもたちが参加する教育の場としての役割があることから、世代を超えた多様な交流を進めることで、より力強く推進していきます。

▼10年間の取り組み

町制施行60周年記念事業「こども議会」

住民と行政の協働による持続可能な地域づくり、まちづくりを行っていくうえで、性別や世代を超えた幅広い住民の参画が重要です。年齢や性別に関わらず、お互いに尊重し合い、一人ひとりが地域や家庭、職場、学校等で個性や能力を十分に発揮することにより、さらに地域やまちが活性化します。

子ども・若者・女性の意欲や柔軟さ、シニア世代の知恵や知識は、地域づくりやまちづくりに欠かせません。幅広い住民の声を聴きながら、性別や世代を超えた全ての住民が活躍できる仕組みづくりを行っていきます。

▼成果目標

成果目標	2015年	現状（2020年）	目標（2030年）
子ども・若者・女性・シニア世代が活躍する団体数	－	－	新規20団体
地域づくり・まちづくりNPO法人数	3団体	4団体	10団体
審議会等への女性参画割合	18.7%	20.5%	30.0%
シルバー人材センター登録者数	92名	89名	100名

▼SDGs17の目標との関係性

女性の活躍を応援します。

誰もが輝ける一人ひとりが主役のまちを目指します。

年齢や世代を超えすべての人が生き生きと活躍し、生涯安心して住み続けられるまちを目指します。

▼10年間の取り組みの詳細

①子ども・若者・女性の活躍する機会の拡大

地域において子どもや若者、女性が生き生きと活躍できる機会づくりや雰囲気づくりを積極的に行い、活動に対する支援を行います。また、各地域で開催される地域づくり座談会等への若者・女性の参加を積極的に促し、幅広い住民の声を町政に反映させる仕組みづくりを行います。さらに、住んでみたい、訪れてみたいと思えるまちの魅力づくりを実践し、若年層への地域人教育などにより、若者や女性の地元定着・回帰を図ります。

○主な具体的取り組み

・子ども・若者・女性の地域活動への参加促進
・子ども・若者・女性が活躍する団体等の育成・支援
・子ども・若者・女性議会（会議）の開催

②アクティブシニアの活躍する機会の充実

シニア世代が経験から培った知恵や知識、技術力、人間関係を生かし、積極的にシニア世代の活躍する機会を充実していきます。

地域の居場所づくりやサロン活動など、シニア世代が主体的に運営する取り組みを推進するとともに、地域における除雪や買い物などの生活支援、ボランティア活動の担い手となる人材育成や組織化に取り組みます。また、シルバー人材センターと連携し、シニア世代の雇用と生きがいづくりを推進します。

○主な具体的取り組み

・生きがいづくりと世代間交流の推進
・シルバー人材センターとの連携・支援
・ボランティア活動などの担い手の育成・支援

（3）次世代育成の拡充

▼10年後の姿

・人間力に満ちあふれ、新しい時代に活躍する人が育つまち

▼現状と課題

社会の急激な変化に伴い、人間関係の希薄化、家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、子どもたちの基本的な生活習慣や自主性・自立性が育成されていない状況が見受けられます。また、特別な教育的支援を必要とする子どもたちの増加や、家庭環境、経済的状況等による教育格差などが顕著になりつつあります。さらには、教員の長時間労働の実態が明らかとなり、早急な対応が必要となっています。

これからの学校教育では、子どもたちが持続可能な社会の創り手として諸課題に主体的に取り組む資質・能力の育成が求められており、基礎的な学力や体力とともに、他者を思いやる心やコミュニケーション能力を培っていくことが必要になっています。

また、地球温暖化、気候非常事態等、地球環境問題が複雑・深刻化しています。都会にはない飯豊の豊かな自然環境の中でしかできない学習と教育の機会を積極的に提供し、地球環境の改善に向けた将来的な知恵を育て、生きる力を備えた子どもたちを育む必要があります。さらには、少子化が急激に進む中、町内の幼児施設や学校の統廃合の課題が現実化しています。

▼10年間の取り組み

「SDGs未来都市」に選定された飯豊町として、地球環境の危機的状況を理解し、対処するための知識を育みつつ、グローバル化が進む社会に適応できるよう、知・徳・体のバランスのとれた、新しい時代に活躍できる子どもの育成を目指します。地域とのつながりを大事に、連綿とつないできた文化や先人の思いを自分事として学び、社会の中で主体的に生きることができる子どもを育てます。

特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの対応や、家庭環境、経済的状況等による教育格差解消に向け、関係機関と連携して取り組んでいきます。少子化が進行する中、子どもたちにより良い教育環境を確保するため、町内幼児施設と小学校の再編を進めていきます。

▼成果目標

成果目標	2015年	現状（2020年）	目標（2030年）
学校が楽しいという児童・生徒の割合	(小) 95% (中) 81%	(小) 95% (中) － %	(小) 100% (中) 90%
授業が分かるという児童・生徒の割合	(小) 90% (中) 85%	(小) 94% (中) 87%	(小) 100% (中) 95%
地域の行事に参加する児童・生徒の割合	(小) 47.1% (中) 31.2%	(小) 62.1% (中) 33.8%	(小) 80% (中) 60%
飯豊が好きという児童・生徒の割合	(小) － % (中) － %	(小) － % (中) － %	(小) 100% (中) 100%
英語が楽しいという児童・生徒の割合	(小) － % (中) － %	(小) － % (中) － %	(小) 100% (中) 100%
コンピューターを使った授業が楽しいという児童・生徒の割合	(小) － % (中) － %	(小) － % (中) － %	(小) 100% (中) 100%

▼SDGs17の目標との関係性

知・徳・体の調和のとれた育成とふるさとを愛する心を育みます。

将来のまちづくりの担い手となる意欲と、資質・能力を育みます。

環境への興味関心を高め、学習機会の充実に取り組みます。

▼10年間の取り組みの詳細

①SDGs教育の推進

これからの社会を生き抜く子どもたちを育てるため、SDGsの精神である誰一人取り残さない、質の高い教育を目指し、子どもたちの「生きる力（社会を生きぬく基盤となる確かな学力・健やかな体・豊かな心）」を育成します。学びのセーフティネットを構築し、いじめや不登校など個々の状況に応じた支援を行います。

○主な具体的取り組み

・学力向上推進プランや町営学習教室「いいで希望塾」の実施
・学校教育指導専門員の配置（教職員への授業指導）
・飯豊版SDGs教育副読本の作成とSDGs学習発表会の開催
・スクールカウンセラーによる臨床心理指導、定期相談や早期支援連携事業の実施

②ふるさとを愛する心を育む教育の展開

郷土の歴史や文化・資源・産業を学ぶなど、地域の特色や資源を生かした教育を進めるとともに、地域活動への参画を通して地域の良さを実感させ、一人ひとりの郷土愛を醸成します。また、地域の企業等の協力を得たキャリア教育を推進します。厳しさに耐えるたくましい教育、自然塾と子ども本来の力を発見するプロジェクトを実施します。

○主な具体的取り組み

・地域学校協働活動推進員配置事業の推進と町民による学校教育への支援
・「いいでの子、大したもんだプロジェクト」の教育プログラム開発

③教育環境の充実

新しい時代に活躍する人材を育成するため、ICT機器を積極的に活用し、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについての教育を推進します。また、外国語教育の強化を図り、異文化への理解を深め、グローバルに活躍する人材を育成します。モビリティー専門職大学等との連携を進め、高度教育の端緒を開いていきます。子どもたちが同年代の仲間との交流を通して切磋琢磨できる学校、飯豊町の自然、田園環境を生かした学校の在り方について検討していきます。

○主な具体的取り組み

・外国語指導助手の配置と英語・ICTコーディネーターの配置（外国語教育の強化、プログラミング教育）
・学校の在り方（再編）についての検討

（4）生涯学習活動の推進

▼10年後の姿

・広い視野を持ち、地域の学びを深め、飯豊町で生きる誇りを持って生活しているまち

▼現状と課題

私たちが心に豊かさや潤いをもって生きがいのある生活を送るためには、生涯にわたって学び、学習活動を続けていくことが大切です。このためには、いつでも、どこでも、自主的に学ぶことのできる環境を身近な場所に整備する必要があります。

また、今を生きる私たちには、先人から受け継いできた地域の貴重な伝統文化や生活の智恵を学びながら後世に引き継いでいく責任があります。

多様な学習活動の推進や文化の伝承には、世代を超えた交流を促進し、人材育成をさらに進め、各世代が地域を学び、愛着を醸成する取り組みが重要です。

さらに、地球環境問題やSDGsに通じる学習や理解を深める必要が高まっています。

▼10年間の取り組み

各地区公民館・まちづくりセンターを中心に、地域を学び、地域の資源や特色を生かした創意工夫の生涯学習活動と地域文化の伝承に取り組み「集う・学ぶ・つなぐ」を実践します。

また、生涯学習活動の推進にあたり、幼児施設や小中学校、地域などと連携して町民の学びを深める取り組みを進めます。

さらに、ニーズに応じた学習に加え、広い視野を持ち地球環境問題やSDGsに通じる学習、最先端の科学技術やこれからの農山村の在り方を学び、心の豊かさや潤いをもって生きがいのある生活、まちづくりにも積極的に関わる生活を送ることができるよう、充実した学習機会の提供を進めます。

▼成果目標

成果目標	2015年	現状（2020年）	目標（2030年）
親子で「まちを知る場」の回数	－	－	20回
青少年が参画する世代間交流事業の数	－	－	10回
図書の団体貸出しを利用している団体数	14団体	12団体	17団体
SDGs関連事業の開催数	－	－	3回

▼SDGs17の目標との関係性

地球環境問題やSDGs学習を推進します。

生涯学習の機会と場の提供を行います。

史跡や伝統文化などを学び、後世に引き継ぎます。

▼10年間の取り組みの詳細

①学習環境及び学習機会の充実

心豊かで品位のある人間性、創造力に富むたくましい人間、ふるさとの良さを知り誇りを持てる「いいで人」を育む生涯学習を進めます。

各地区公民館・まちづくりセンターが地域住民の活動をサポートする体制を整備し、地域の特色・アイデアが発揮できる学習機会の創出に取り組みます。

また、各地区公民館・まちづくりセンター等と連携して町民が求める学習機会を企画し、広い視野を持ち地球環境問題やSDGsに通じる学習を進め、拠点である生涯学習施設の維持管理および整備を進めます。

○主な具体的取り組み

・住民のアイデアを生かした創意的な生涯学習の企画推進
・生涯学習施設の適正な運営、維持管理および整備によるサポート機能の充実
・複合的な社会教育施設の整備検討
・多様な主体と連携した地球環境問題やSDGsに通じる学習の推進
・いいで天文台の活用や関係機関との連携による各季節の天体・自然変化をとらえた学習機会の創出

②家庭教育・図書教育・視聴覚教育・青少年教育の推進

家庭の教育力を育むため、子育て世代を対象とした学びの場や、SDGsなど町の取り組みをわかりやすく知る場を創出し、親子での学習機会と体験的活動を推進します。

各地区まちづくりセンター等と連携し、読書活動の環境整備を促進するとともに、町内の文化資源や、SDGsの取り組みをテーマとした紙芝居等、自作視聴覚教材の制作を支援します。

青少年育成町民会議と連携して青少年との関わりを深め心身の健全な育成に取り組み、各地区まちづくりセンターや教育施設を拠点とした青少年ボランティアの活動を支援します。

○主な具体的取り組み

・幼児施設・小中学校と連携した家庭教育講座の開催
・町内団体・学校・社会教育施設と連携した読書活動の推進
・自作視聴覚教材の制作支援と利活用
・青少年の健全育成の推進とボランティア支援

③伝統文化の伝承と郷土愛の醸成

各地区公民館・まちづくりセンター等と連携して、先人が築いた伝統文化や智恵を学べる場を創出し、世代間交流を図りながら次世代の「いいで人」を育み、伝統文化の伝承と青少年を含む各世代の郷土愛の醸成を図ります。さらに、地域文化に関わる住民団体の活動を支援し、子世代・孫世代、転入者への文化・技術の伝承の機会創出に取り組んでいきます。

伝統芸能や伝統工芸の保存と技術伝承を推進するため地域・家庭・学校における体験学習を支援し、将来的な産業化の可能性について地域とともに検討します。

○主な具体的取り組み

・世代を超えた地域資源の再発見と地域学習の推進
・地域文化に関わる住民団体の活動支援と交流促進
・伝統文化の保存と技術伝承の支援、産業化の可能性の検討

(5)芸術・文化の振興

▼10年後の姿

・誰もが気軽に芸術・文化に触れることができ、楽しみの中から新たな交流が生まれるまち

▼現状と課題

今般のコロナ禍の影響により、文化・芸術活動が低迷しており、今後「新しい生活様式」を取り入れたイベント等の開催や鑑賞のあり方を考えていく必要があります。

また、文化・芸術活動を行う各団体会員の高齢化による活動の停滞や会員数の減少によって、地域の伝統行事の存続や、新たな人材の育成等が課題となっています。

▼10年間の取り組み

多くの町民が気軽に多種多様な文化・芸術に触れ合うことによって、自ら企画実践するイベントの創出や、そのイベントを多くの町民が支援し、人との交流が生まれる環境を「いいで田園ルネサンス」と連動して再構築していきます。

また、芸術・文化を通じたまちづくりを推進するため、獅子舞などの伝統行事を存続させる取り組みや関係機関との連携・交流により新たな人材の発掘や育成を行っていきます。

本町の地域資源である自然、農林業環境を活用した新たな文化・芸術活動を創出し情報発信していきます。

▼成果目標

成果目標	2015年	現状(2020年)	目標(2030年)
音楽や芸術関係の学生受入件数	−	−	5件
音楽サークルの数	19団体	15団体	15団体
音楽を活用した地域おこし協力隊受入	−	−	5名
インターネットを活用した芸術文化講座の開催	−	−	4回
子ども芸術鑑賞教室の開催	1回	1回	2回
地域資源を活用した芸術・文化の創出	−	−	5件

▼SDGs17の目標との関係性

芸術・文化を通じた心の豊かさは、心身の健康につながります。

小さなころから芸術・文化に触れることができる環境を整備します。

農地、森林、田園環境を生かした創作活動を推進します。

▼10年間の取り組みの詳細

①音楽からのまちづくりの再興

「音楽からのまちづくり」を再構築し、音楽をきっかけとした人づくり、地域づくりにつなげ、心の豊かさを育むとともに、町民の歌「いつも心に」を広く町民に普及推進を図ります。

○主な具体的取り組み

・「音楽からのまちづくり」の再構築戦略づくり

②多様な文化・芸術活動の推進と環境づくり

通信技術の進化により「観る」ことの手法も多様化しており、時代に対応した芸術・文化活動と、これまでの「生」「本物」を体感する芸術・文化活動の両方を推進することによって豊かな感性を育みます。

「本物」を「生で鑑賞する」ことは、特に子どもたちの成長にとって重要なものであることから、プロの舞台等を鑑賞する場を多く提供していきます。

また、担い手不足により低迷している獅子舞等の地域伝統行事について、新たな人材の発掘や育成を図っていきます。

○主な具体的取り組み

・新たなパソコン講座の開設
・子どもたちへ各種芸術文化を生で鑑賞することができる機会の提供
・地域伝統行事伝承のための支援活動

③地域資源を活用した芸術・文化の創出

感染症が蔓延する現代社会において、広大な田園や森林、四季折々の花々などのシチュエーションを背景に、人々が密にならずに集う芸術・文化イベントを展開していきます。

○主な具体的取り組み

・住民が自ら実践する芸術・文化活動への支援